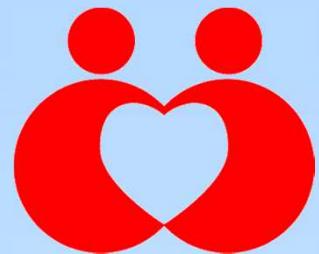


第45回 造血幹細胞移植委員会
(平成27年1月16日)
資料2-5

システムは法制化で成熟したか

2015年1月16日
第45回造血幹細胞移植委員会



認定NPO法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会
理事長 野村正満

変化した印象はあるだろうか？

印象とすれば、大きな変化を見ることはできない



当然のこと？

なぜなら、法制化によって、一部のシステム変更は
あったものの、大部分はそれまでの現状を追認したものであるから



ではシステム（役割）が変わった部分はどうだろうか

日赤(支援機関)の普及啓発

「普及啓発」と「広報」との内容の差異
をどこまで理解しているのだろうか？

- ・普及啓発において、ドナー登録窓口現場を担う立場からの独自の展開を期待しているのだが...
- ・少なくともさい帯血バンク事業についての情報公開性は、日本さい帯血バンクネットワークが担っていた当時よりも、劣化しているのではないか

情報公開といえば

(財)日本骨髓バンクの情報公開の姿勢

市民の視線からの感想

「理事会」「業務執行会議」等は公開で開催されるのが原則

- ・最近は会議の中で「非公開」とする部分が増加している印象が強い
- ・理由もつまびらかにしないまま傍聴者排除の運営方針に疑問

懸案事項の検討や論議は公開の場で行うべし
情報公開という社会の潮流に逆行
市民の善意が必要不可欠な事業の透明性を

骨髓バンクにおける ドナーコーディネート期間短縮について

バンクが抱える最大の改革すべきテーマが「コーディネート期間の短縮」と認識

移植希望患者の移植実施率が6割という状況の打破が事業飛躍のポイント

20年来、コーディネート期間短縮が呼ばれているのになぜ実現できないのか

そのために、どのような改定努力が行われてきたのか

小手先の見直しでは改善の見込みがあるのか

抜本的な制度改革が必要

誰のためのコーディネートなのか

- ・ドナーのため？
- ・患者のため？
- ・骨髓バンクのため？

※コーディネート体験ドナーの声は...

「ドナーの意向が最優先されます」は本当か

※コーディネート実施現場はどこ...

コーディネートの基本姿勢(哲学)はこのままでよいのか

※なぜ「提供をお願い」してはいけないのか...

「コーディネートマニュアル」の
全面改定の時期では？